

令和6年度中区外国人数基礎調査、中区外国人意識調査がまとまりました！

中区在住の外国人住民の生活実態を把握するため、国籍・在留資格別等の人口の経年変化を調べる外国人数基礎調査と、外国人住民の生活実態に関するインタビューを行う外国人意識調査を実施しました。（前回調査：外国人数基礎調査（令和元年度）、外国人意識調査（令和2年度））

■報告書は[こちら](#)

1 調査概要

○中区外国人数基礎調査

区内に居住している外国人住民の実態を把握するため、令和元年度に実施した同調査の調査項目を基に経年変化を調べることを目的に実施。

※調査に使用した主なデータは、住民基本台帳（令和6年5月時点）、「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」（総務省）、「地域、国籍別外国人人口」（横浜市）など

○中区外国人意識調査

・調査方法：個別インタビュー

・調査対象：区内在住の外国人又は外国にルーツを持つ住民20件を対象に実施。

※対象者の抽出は、中区における国籍別の人口比率に基づく。中国5件、韓国、台湾、フィリピン、ベトナム、ネパール、米国各2件、タイ、インド、英国各1件。

・調査項目：プロフィール、ライフスタイル（家族、日本語学習、コミュニティ等）、
中区の選択理由、住みやすさ、行政サービスの利用状況など

2 調査結果の抜粋（詳細は添付資料をご覧ください。）

【中区外国人数基礎調査】

- ・区内の国別外国人数の推移について、中国はコロナ禍の影響を受け減少。回復傾向にあるが減少前の状態に回復していない。一方で、ネパール、ベトナムなどが急速に増加。
- ・エリア別の外国人の分布について、第2地区、埋地地区、第1地区中部の比率が高い。前回調査（R1）と比較すると、第2地区の山下町や第3地区山手町などで外国人数が減少し、その他の多くの地区では外国人数が増加している。
- ・世帯類型別について、単身の外国人の比率平均は52.2%。国・地域別に差があり、比率が80%を超えるのは、ネパール、ミャンマー、ベトナム。単身比率が40%を下回るのは、米国、英国。

【中区外国人意識調査】

- ・中区の住みやすさについて、街に多言語表記が多いことをあげる人が多い。また、ほとんどの人が交通・買い物が便利であることをあげている。
- ・住みにくさについて、繁華街での治安等があげられている。
- ・コミュニティについて、日本人は何を考えているかわかりにくいといった意見がある一方で、街中の店などで趣味を同じくする人同士で友だちになったという声もある。
- ・生活に必要な情報の入手について、ネット検索が良く利用されている。また、電車では携帯NGなど、書かれていないルール（日本独自のマナー）がわからなかったという声もあった。

お問合せ先

中区 区政推進課長 宮里 弘美 Tel 045-224-8120



GREEN × EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

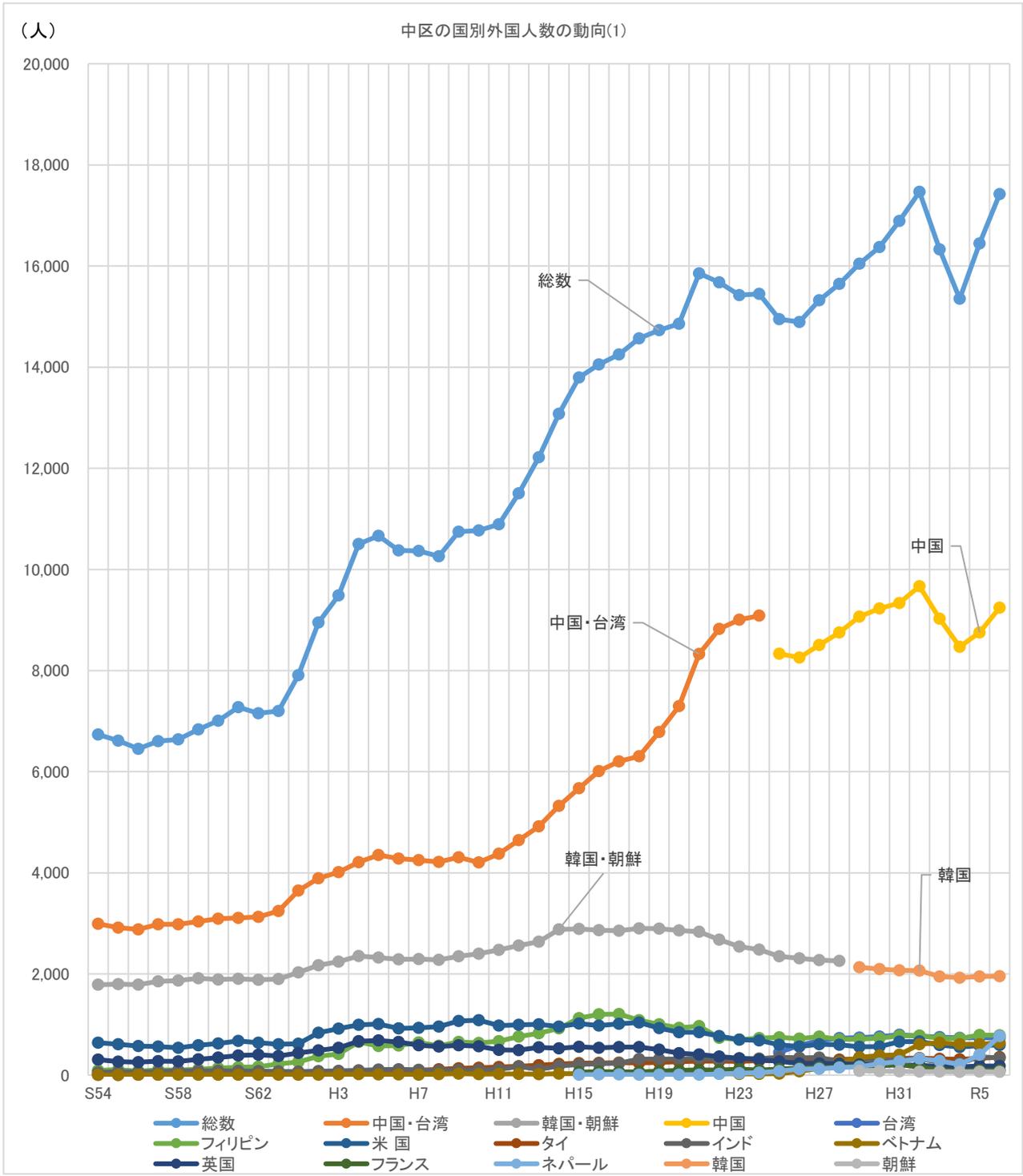
2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



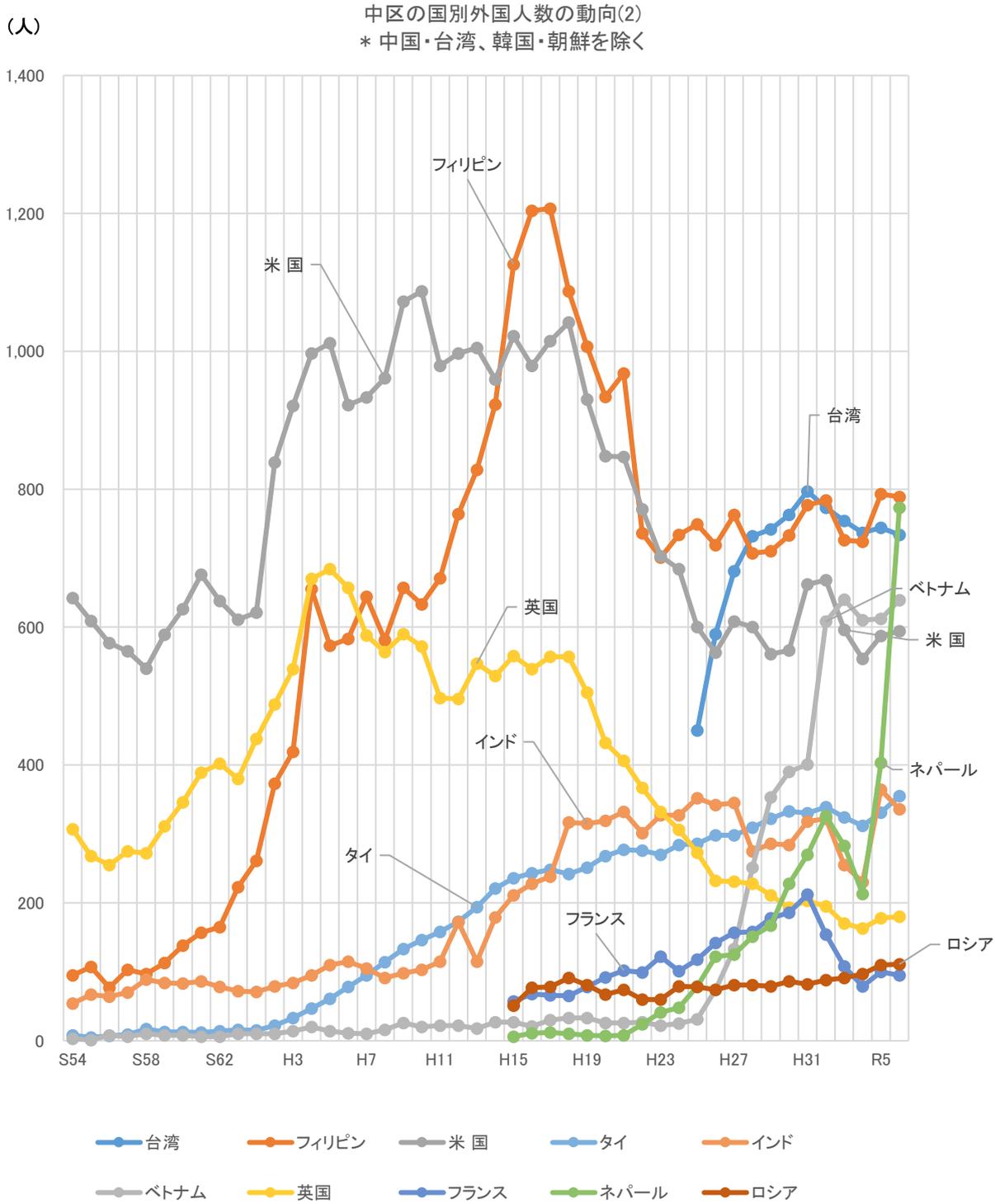
令和6年度 中区外国人数基礎調査 集計結果概要

■国・地域別外国人数の動向

中国と韓国が外国人の過半を占めている。中区は中国人の比率が約52%と高いことが特徴である。外国人数の半数を占める中国はコロナ禍の影響を受け減少した。回復傾向にあるが減少前の状態に回復していない、韓国は緩やかな減少傾向にある。ネパール、ベトナムなどが急速に増加している。



* 各年区別月別世帯数男女別人口（日本人と外国人別）の集計結果（横浜市統計書）による。各年3月末時点
 * 昭和53年～平成23年の中国は中国と台湾の合計。平成24年以降は分けて集計されている。



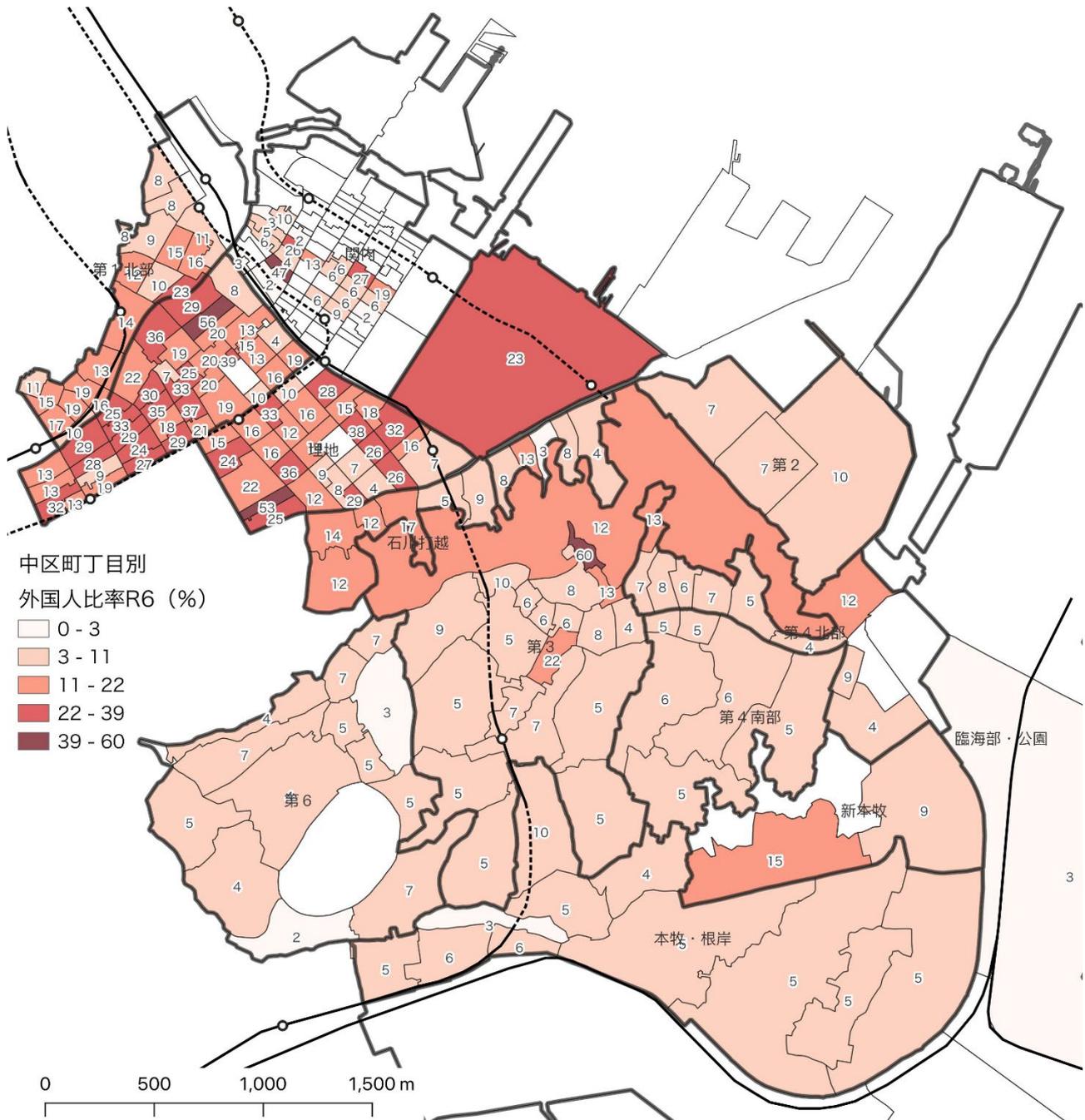
* 各年区別月別世帯数男女別人口（日本人と外国人別）の集計結果（横浜市統計書）による。各年3月末時点

■エリア別外国人の分布

中区では区内の広い範囲に外国人が住んでいる。関内地区の北西部分など業務・商業施設が集中している区域にも分布している。また、山下町や山手、新本牧地区の東部にも多くの外国人が居住している。

また、町丁目別外国人の増減数を見ると、令和1～6年の期間では、第2地区の山下町や第3地区山手町などで減少した。その他の多くの地区では外国人が増加している。

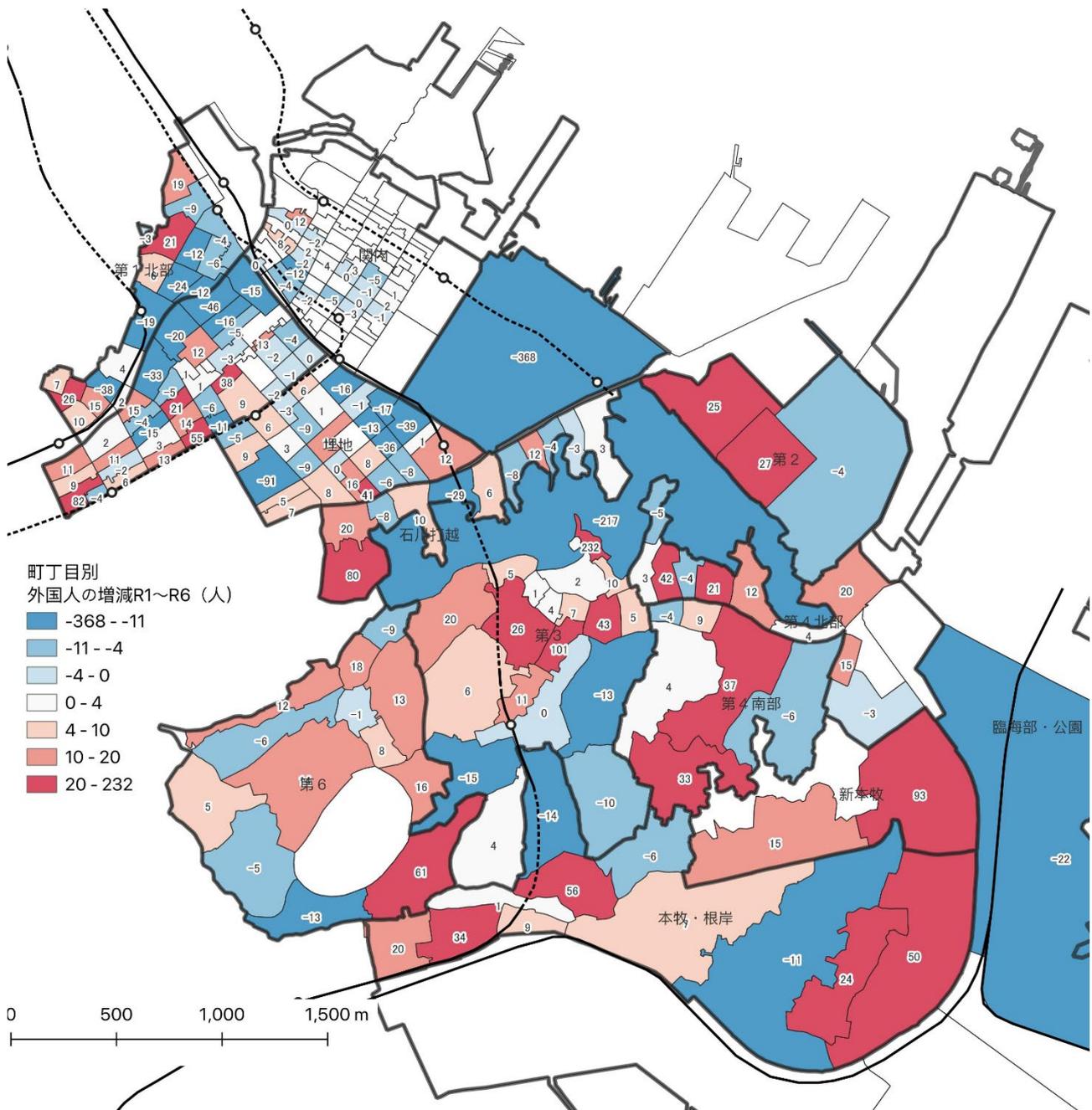
町丁目別外国人比率



*住民基本台帳の独自集計結果による。令和6年5月時点。

*外国人比率0に外国人のいない町丁目数73を含む。

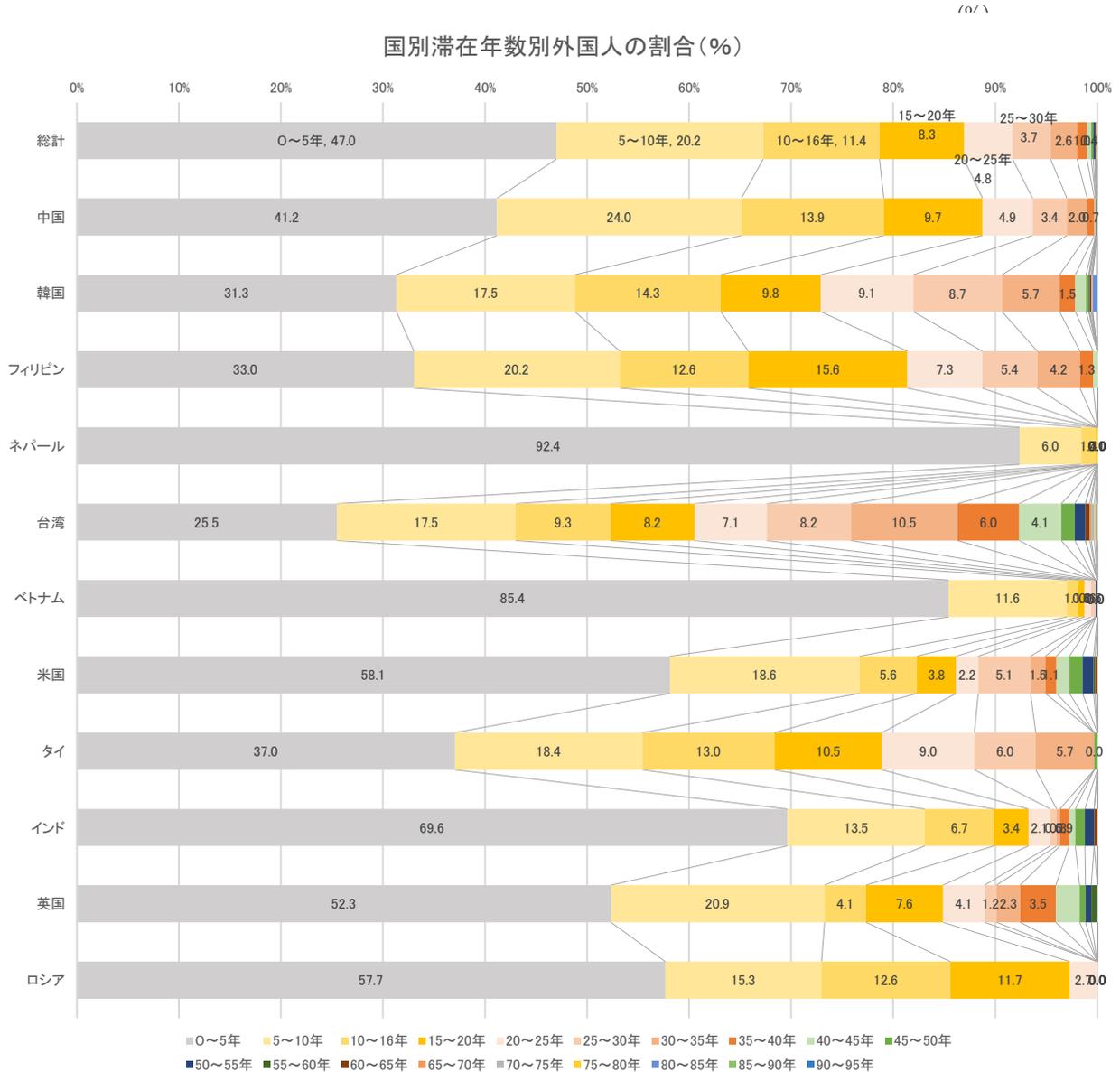
町丁目別外国人の増減数 R1~R6(人)



*住民基本台帳の独自集計結果による。令和6年5月時点。

■国別・外国人世帯の類型別世帯の割合

単身の外国人の比率平均は52.2%である。国・地域別に差があり、比率が80%を超え高いのは、ネパール(89.0%)、ミャンマー(88.8%)、ベトナム(85.5%)である。単身比率が40%を下回るのは、米国(36.9%)、英国(35.1%)である。



*住民基本台帳の独自集計結果による。令和6年5月時点。

令和6年度 中区外国人意識調査 結果概要

■中区の住みやすさ、住みにくさ

住みやすさ

- ・街に多言語表記が多いことをあげる人が多い。
- ・ほとんどの人が「交通・買い物が便利」であることをあげている。次いで、「景色がきれい」「東京に比べてコンパクトで閑静」「安全で子育てしやすい」といった環境があげられている。
- ・また、「外国人を受け入れてきた歴史がある」「外国人が多い」「多言語情報が多い」「周りの人がやさしい」といった社会のよさがあげられている。

住みにくさ

- ・街の移動では、繁華街での治安等や自転車の置き場所がわからないといったことがあげられている。
- ・また、中区だけの問題ではないとしながら、来日直後は信用の問題で賃貸や銀行口座の開設が難しいことが住みにくさにつながっているとの指摘もみられる。

■コミュニティ

- ・同胞人コミュニティは、身近にある人となない人、あっても参加していない人、積極的には参加していないがつながりを感じるなど、参加の仕方はさまざまである。
- ・教会や寺、母国の料理店が、つながりの拠り所となっているようすもみられる。
- ・日本人は何を考えているかわかりにくい、マンションでは周りの人が冷たい、といった意見もある一方で、横浜スタジアムや街中の店など、趣味を同じくする人同士で友だちになったという声もある。
- ・消防団、地域ケアプラザの花壇交流会など、地域でのボランティア活動に参加している人もいる。
- ・なか国際交流ラウンジが、それぞれの参加ニーズに応じて各種の地域活動情報を提供し、自ら自分に合う活動を選んで地域活動に参加していた。

■生活に必要な情報の入手や困りごとの相談

- ・ネット検索がよく利用されている。
- ・生活情報の入手は、身内や同郷ネットワーク、ママ友のつながりがあればそこから得ている。また、日本人学校、外国人学校、国際交流ラウンジ等も入手先となっている。
- ・祭りなどの地域のイベント情報が調べても見つけにくいといった声もある。
- ・電車では携帯NG、リュックは前で持つなど、書かれていないルール(日本独自のマナー)がわからなかったという声もあった。